

第22回愛知県老健大会演題発表プログラム

第1部 13:30-14:30

1 昼夜逆転の改善を目指して

メリハリのある生活に向けた取り組み

医療法人 幸世会 介護老人保健施設 セントラル堀田

介護福祉士

昼夜逆転している利用者様を対象とし、日光浴により睡眠ホルモンの分泌を促すとともに、ラジオ体操、園芸作業などを交えつつ活動量の増加を図り夜間覚醒の改善に向けて実施した内容を報告します。

2 糖質制限による認知症の予防

毎日のご飯が脳を蝕む

医療法人 良斉会 介護老人保健施設 ヴィラとびしま

管理栄養士

糖尿病のある高齢者の場合は、高血糖の状態が長く続くことで認知機能が低下しやすくなり、認知症を発症しやすいといわれています。そこで糖質制限を行い、認知機能に変化をもたらすのか検討しました。

3 いのちに繋がる食を

摂取量と安全性を求めて

医療法人財団 愛泉会 老人保健施設 愛泉館

介護福祉士

ターミナル期に入り誤嚥性肺炎を発症するリスクの高い利用者に対し、できるだけ長く経口摂取ができるように、摂取量と安全性を求めて多職種連携の中で介護職としての取り組みを報告します。

4 舌ケアにより症状が改善した一例

医療法人 慈照会 老人保健施設 ハートフルライフ西城

介護福祉士

口腔ケアの目的は誤嚥性肺炎の予防、免疫力向上等です。機能向上させる事で要介護状態を防ぎ、それ以上悪化させないことに繋がります。今回は口腔ケアをすることで多岐にわたる効果に繋がる取り組みを報告します。

第2部 14:30-15:30

5 個人の趣味と能力に応じたレクリエーション活動への取り組み

音楽が心のバロメーター

医療法人 聖俊会 豊川老人保健施設 ケアリゾートオリーブ

介護福祉士

レクリエーションとは単なる娯楽や余暇ではなく、集団または個人の趣味や能力に応じて実施される介護サービスといえる。そこで利用者の生活歴から音楽活動に着目した取り組みとその結果について報告する。

6 余暇活動を支援するための個人カードの活用

愛知県厚生農業協同組合連合会 介護老人保健施設 あおみ

介護福祉士

個々の利用者に合わせて余暇活動内容を掲載した個人カードを作成した。その結果介護スタッフの意識が変化し、利用者の目標に合わせてケアを支援できるようになったため報告する

7 人生を共にしてきた装具は在宅復帰のきっかけでした

自信回復に向けた支援相談員からの介入

医療法人 豊和会 老人保健施設 かずえの郷

支援相談員

当施設は在宅復帰加算型で自宅退所は決して多くはないが、老健の役割である家庭での生活を目指せるよう常に努力してきた。今回、多職種で装具再作成に関わることで本人の気力や自信の回復を果たし、在宅復帰へ繋がった為報告する

8 住み慣れた地域で暮らし続ける

還流チームの発足

医療法人 愛生館 老人保健施設 ひまわり

支援相談員

老健から退所後も、必要量のリハビリを継続し、利用者が住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、多職種でチームを作り、在宅生活を支援する流れを還流と名付けました。その取り組みを紹介させていただきます。

第3部 15:30-16:30

9 職員のICT活用

眠りSCANの活用方法を見直す

医療法人 財団善常会 老人保健施設 シルピス大磯

介護福祉士

眠りSCAN導入から2年が経過した。職員にアンケートを実施し、活用方法の把握と見直しを行った。

10 職員における排泄の見直しの改善

医療法人 杏園会 介護老人保健施設 トリトン

介護福祉士

利用者様の排泄方法の見直しをする更新システムが存在していなかったため定期的に更新するシステムを作成しました。

11 みんながリーダー

誰でも同じサービスが提供できるように

医療法人 豊和会 介護老人保健施設 さなげ

介護士

介護職の経験がない職員の配置等により職員間の業務遂行力に差が生じた。業務の手順書を見直したことで、職員の業務に対する意識変化や業務遂行力の向上が見られた。その取り組みを報告する。

12 ケアマネ書類のペーパーレス化を目指して

ファイリング書類削減の取り組み

医療法人 清水会 豊明第二老人保健施設

介護支援専門員

当施設では介護ソフト「ワイズマン」を使用して電子カルテ化を進めている。ケアマネとしても電子化をすることでペーパーレスにし、業務の効率化を図れるのではないかと考えた。その取り組みを報告する。